



平成二十六年 定期総会開催

二松学舎大学

父母会報

平成5年5月10日創刊
平成26年7月31日発行
(第85号)

二松学舎大学父母会
(本部・事務局)
東京都千代田区三番町6番地16
二松学舎大学学生支援課

題字は
故 観山貞廣常吉先生書

報告並びに決算については、審議の結果、原案どおり承認された。

第II号議案の平成二十六年役員選出は、会長に木村一成氏、続いて会計監査に野口悦子氏と小沢規久子氏が決定した。

第III号議案の平成二十六年事業計画並びに予算が審議され、それぞれ原案どおり承認された。

議事終了後、平成二十五年で役員を退任した三輪秀彰氏、星照子氏、鳴海るみ子氏、岩田秀生氏の四名に渡辺学長から感謝状と記念品が贈呈され、総会は終了した。

午後三時五十分から、会場を九段一号館十三階のラウンジに移し、教職員と父母との懇親会が開催された。

平成二十六年五月二十四日(土)

午後一時三十分、九段一号館中洲記念講堂において、平成二十六年度二松学舎大学父母会定期総会が開催された。

総会に先立ち、国際政治経済学部・土屋茂教授による『生殖補助医療における親子関係―子の法的親(父・母)はだれか』と題した講演会が行われた。

午後二時三十分、小沢規久子氏の司会により総会が開会され、三輪秀彰父母会長、渡辺和則学長がそれぞれ挨拶をした後、田中福男議長により議事に入った。

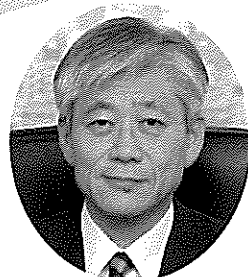
第一号議案の平成二十五年事業



ごあいさつ

「あなた自身を明確に示す」

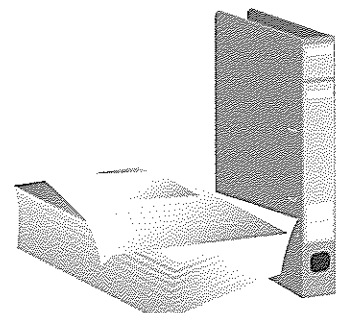
学長 渡辺和則



「マラソン・ランナーにとつては、すべてが知力だ」(For marathoners, it's all in the mind.)と題する特集記事がインターナショナル・ヘラルド・トリビューン紙(2006年11月3日)に掲載されました。何人かの世界的に有名なプロとアマのマラソン・ランナーにインタビューして、レースの途中で辛くなったときに、彼または彼女たちがどのようにして苦しさを乗り越えるか、ということについて聴いたものです。その中に、2005年のシカゴマラソンで優勝したカスター(Koston)さんのことが、次のように採り上げられています。

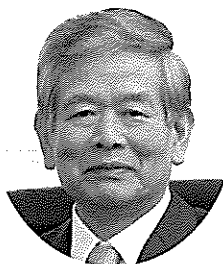
「マラソン・ランナーにとつては、すべてが知力だ」(For marathoners, it's all in the mind.)と題する特集記事がインターナショナル・ヘラルド・トリビューン紙(2006年11月3日)に掲載されました。何人かの世界的に有名なプロとアマのマラソン・ランナーにインタビューして、レースの途中で辛くなったときに、彼または彼女たちがどのようにして苦しさを乗り越えるか、ということについて聴いたものです。その中に、2005年のシカゴマラソンで優勝したカスター(Koston)さんのことが、次のように採り上げられています。

「マラソン・ランナーにとつては、すべてが知力だ」(For marathoners, it's all in the mind.)と題する特集記事がインターナショナル・ヘラルド・トリビューン紙(2006年11月3日)に掲載されました。何人かの世界的に有名なプロとアマのマラソン・ランナーにインタビューして、レースの途中で辛くなったときに、彼または彼女たちがどのようにして苦しさを乗り越えるか、ということについて聴いたものです。その中に、2005年のシカゴマラソンで優勝したカスター(Koston)さんのことが、次のように採り上げられています。



「アクションプラン25」

理事長 水戸英則



「N2020PLAN」の実行計画である「アクションプラン25年度」の課題は、約7割が消化されつつあり、改革は概ね順調に進んでいると言えます。

すなわち、戦略的広報計画の推進、大学4号館の建設や1・2・3各号館の改造・改修等のキャンパス整備計画、大学教育の質的転換策、例えばシラバスの充実やカリキュラムのナンバリング化、学生ポートフォリオの導入、英語等語学プログラムの導入、就職改善のためのキャリア教育のカリキュラムへの埋め込み等についても着実に進められ、平

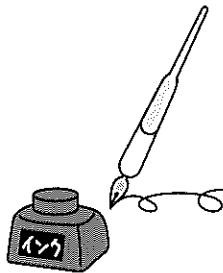
成25年度文部科学省の「私立大学等改革総合支援事業」に採択され、「大学改革を支える事務職員の養成」と言った採択型補助金も含め累計で九〇百万円近く獲得しています。

次に、語学教育の更なる推進や国際交流を含む国際化については、その方向性を学内で議論しています。また新学部や新学科の設置問題は学長を中心に関係者で議論しており、大卒の方向付けが見えてきており、平成29年の創立140周年の時点で新学部や新学科のスタートを目標に検討しています。

長期ビジョンの取纏めから始まっ

た本学の一連の学校改革に向けての動きは、事務組織においては末端まで浸透・理解され、教員組織においても、その浸透速度を増しています。今後も、役員・教職員が一丸となって「アクションプラン」に掲げる課題を、毎年一つずつ着実に達成して行くことが、「N2020PLAN」に掲げた二松学舎大学の将来像実現の鍵となるものと確信しております。

いどんな人で、何ができて、何をやりたいかを明確に示すことです。学生の皆さんも、気持ちの掛け合いなどときには「Define Yourself」を唱え、自分を鼓舞してみてください。もうひと踏ん張りする勇気を持てるかもしれません。



父母会活動—大学と学生のために—

父母会会長 木村一成



成します。このような環境の中で、学生一人一人が有意義な学生生活を過ごせるよう、その環境づくりの一端を私たち父母会も応援できればと思います、活動を続けてまいります。

思い起こせば、私たちの子供が入学した時は未曾有の大震災の年でした。あれから4年、子供たちは「助け合い」「絆」「いたわり」という言葉をたくさん聞き、経験しながら大学生活を送ってきたように思います。大学生活は知識の習得だけを目指す四年間ではなく、様々な技能の琢磨とともに、人との出会いなどを通じて自らを磨き、良き社会人となるべく土台作りを励む大変貴重な時間と言えるのではないのでしょうか。子供たちには、生涯を通じて社会に貢献できる精神力と行動力を身につけてもらい、大学で過ごす4年間で意義あるものにしてもらいたいと願っています。

今年度、父母会役員を務めさせて頂くことになりました。息子の付属高校でも役員をさせて頂き、充実した三年間でした。通い慣れた九段下ともお別れだと寂しく感じていましたが、また、縁あって九段下に通えるようになり、嬉しく思っています。微力ですが、学生達がより良い大学生活を送れるよう、諸先輩方と共に頑張りたいと思っています。どうぞ宜しくお願いいたします。

今年度、父母会役員を務めさせて頂くことになりました。先生方や学生の皆さんのお役に立てる様、父母会活動の一助となる様に微力ながら頑張りさせていただきます。どうぞ宜しくお願いいたします。

父母会の活動も今年で二十一年目に入ります。

過日の平成二十六年度父母会定期総会において、承認をいただき、本年度の活動がスタートしました。これまで諸先輩の方々が大学と一体となって進めてきた活動を継承しながら、大学とご父母の方々のパイプ役となるよう、役員一同全力で活動して参ります。皆様方の温かいご支援、ご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

本年度、父母会役員を務めさせて頂くことになりました。

横浜の理数科の高校に進学したものの、「国語の教員になりたい」と言われ、高校の先生方に相談し、二松学舎を教えて頂き、入学させて頂きました。

高校とは全く違う環境を娘も楽しんでるようで安心しています。

私自身は役員を何度かさせて頂いておりましたが、大学は初めてのことで、皆様にお教えを頂きながら、少しでもお役に立てればと思います。どうぞよろしくお願いたします。

今年度、父母会役員を務めさせて頂くことになりました。先生方や学生の皆さんのお役に立てる様、父母会活動の一助となる様に微力ながら頑張りさせていただきます。どうぞ宜しくお願いいたします。

新役員紹介—役員に就任して

結城 文子

南條 麻里

今年度、父母会役員を務めさせて頂くことになりました。息子の付属高校でも役員をさせて頂き、充実した三年間でした。通い慣れた九段下ともお別れだと寂しく感じていましたが、また、縁あって九段下に通えるようになり、嬉しく思っています。微力ですが、学生達がより良い大学生活を送れるよう、諸先輩方と共に頑張りたいと思っています。どうぞ宜しくお願いいたします。

今年度、父母会役員を務めさせて頂くことになりました。先生方や学生の皆さんのお役に立てる様、父母会活動の一助となる様に微力ながら頑張りさせていただきます。どうぞ宜しくお願いいたします。

酒井 継美

久田 恵美

今年度、父母会役員を務めさせて頂くことになりました。

横濱の理数科の高校に進学したものの、「国語の教員になりたい」と言われ、高校の先生方に相談し、二松学舎を教えて頂き、入学させて頂きました。

高校とは全く違う環境を娘も楽しんでるようで安心しています。

私自身は役員を何度かさせて頂いておりましたが、大学は初めてのことで、皆様にお教えを頂きながら、少しでもお役に立てればと思います。どうぞよろしくお願いたします。

今年度、父母会役員を務めさせて頂くことになりました。先生方や学生の皆さんのお役に立てる様、父母会活動の一助となる様に微力ながら頑張りさせていただきます。どうぞ宜しくお願いいたします。

◎いつもお世話になっております。今後共よろしくお願ひ致します。
 (千葉県 文学部2年)

◎父母会役員の皆様、お世話になっております。
 (東京都 文学部4年)

◎丁寧なご連絡をありがとうございます。
 (神奈川県 文学部2年)

◎仕事の都合があるので早く日程を教えてください。



氏名	役職	学年	氏名	役職	学年
木村一成	会長	4年	田沼好志枝	委員(広報)	2年
田中福男	副会長	3年	三原由美子	委員(広報)	2年
田端克至	副会長(学務局長・キャリアセンター長)		田中幸子	委員(広報)	2年
野口悦子	委員(会計監査)	4年	渡邊勝文	委員(広報・会計)	2年
小林良記	委員	4年	酒井継美	委員	1年
田中貴子	委員	4年	結城文子	委員	1年
倉持政江	委員(企画)	3年	南條麻里	委員	1年
吉田広美	委員(企画)	3年	久田恵美	委員	1年
小沢規久子	委員(企画・会計監査)	3年			



平成26年度 総会余滴

総会出欠ハガキの通信欄から、会員の方々のご意見を掲載します。紙面の都合によりすべてを掲載することはできませんがご了承下さい。

◎毎度多大のご配慮をありがとうございます。
 (神奈川県 文学部4年)

(神奈川県 国際政治経済学部1年)

《父母会事務局より》

例年、父母会定期総会は五月の第四土曜日に、地区別父母懇談会(東京会場)は七月の第一土曜日に開催しております。三月三十一日発行の父母会報には、次年度の年間予定と地区別父母懇談会の開催地と開催日時を掲載を予定しておりますので、ご確認頂き、ご予定を立てていただければ、と思います。

毎年、貴重なご意見、ご要望をお寄せ頂きありがとうございます。今後ともよろしくお願ひ申し上げます。尚、紙面に掲載できないご意見、ご要望につきましては、大学より個々に対応させていただいております。

平成26年度役員

平成26年度 二松学舎大学 父母会定期総会議事録

日時：平成26年5月24日(土) 13:30~17:30
 場所：九段校舎 中洲記念講堂
 講演：「生殖補助医療における親子関係 一子の法的親(父・母)はだれかー」
 二松学舎大学国際政治経済学部教授 土屋 茂 先生
 出席者：本年度会員数 2,860名
 委任状 964名
 出席者 84名 合計 1,048名
 大学側：渡辺学長、山崎副学長、田端学務局長、神河学務局次長、小西学生支援課長、竹内学生支援課員

の提案があり、承認された。依頼を受けた大学側(田端学務局長)より次の各氏が推薦された。

会長 木村一成氏
 会計監査 野口悦子氏、小沢規久子氏
 田中議長が大学側から推薦された各氏について諮ったところ異議なく承認された。
 続いて木村新会長より就任の挨拶があった。

◇第Ⅲ議案〈平成26年度事業計画並びに予算〉
 木村新会長より、議案書に基づき概要説明があった。審議の結果、原案のとおり承認された。

議事終了後、下記の退任役員へ渡辺学長より感謝状と記念品が贈呈された。
 三輪秀彰氏、星照子氏、鳴海のみ子氏、岩田秀生氏

1. 開会の辞 司会 小沢 規久子
 司会者より「本日総会時の会員数は、2,860名であり、父母会会則第9条により委任状を含めて572名の出席が必要です。本日の出席者は 84名。委任状は964名。合計 1,048名です。よって本日の総会は成立する。」との説明があった。続いて、三輪秀彰父母会長、渡辺和則学長からそれぞれ挨拶があった。

5. 閉会の辞 司会 小沢規久子

◇懇親会
 九段校舎13階ラウンジに移動し、懇親会が開催された。17時30分、盛会のうちに終了した。

平成26年5月24日

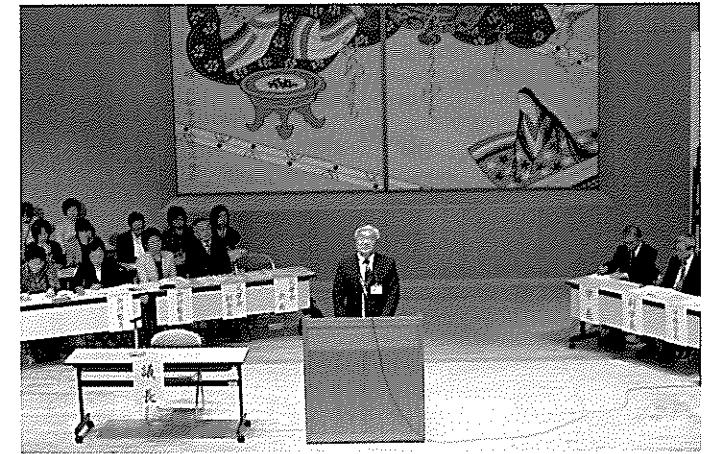
議長	田中 福男	㊟
議事録署名人	田中 幸子	㊟
議事録署名人	三原由美子	㊟
書記	田中 貴子	㊟

2. 議長指名
 司会者より「総会の議長は父母会運営細則により会長または会長の指名するものとなっております。会長より田中福男さんが指名されているので、田中議長のもとで議事を進行させたい。」との説明があり、田中氏が席についた。

3. 書記・議事録署名人指名
 田中議長が書記及び議事録署名人として次の各氏を指名した。
 書記 田中貴子氏
 議事録署名人 田中幸子氏、三原由美子氏

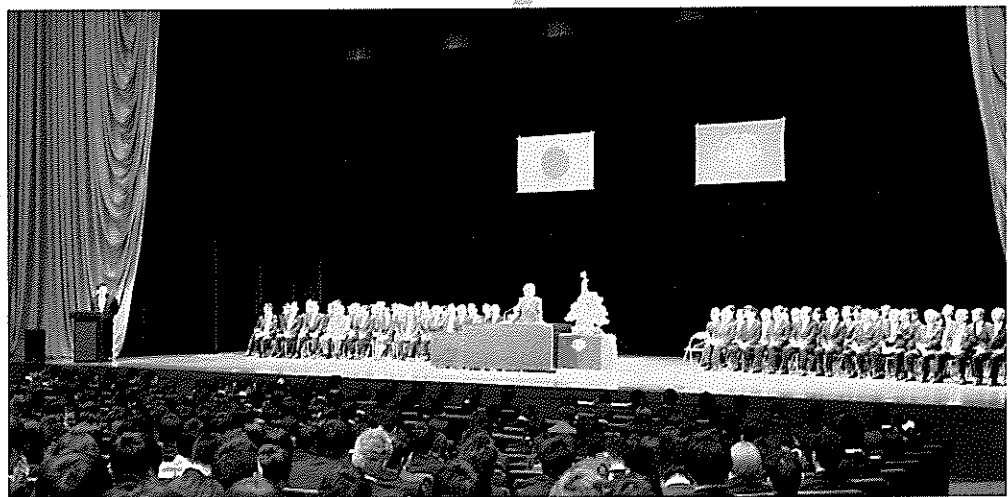
4. 議 事
 ◇第Ⅰ号議案〈平成25年度事業報告並びに決算〉
 三輪会長より、議案書に基づき概要説明があり、続いて星会計監査より監査報告があった。審議の結果、原案のとおり承認された。

◇第Ⅱ号議案〈平成26年度役員選出〉
 田中議長から、会則第6条・8条に基づき、総会において役員(会長・会計監査)を選出することとなっているとの説明があり、その選出方法について諮られた。選出方法が議長に一任されたのを受け、田中議長から前回同様、大学側に候補者の推薦を依頼したいと



桜花爛漫の四月の入学式からはや四ヶ月。七一三名を数えた新入生もキャンパスでの生活にも慣れ、ようやく大学生らしくなってきました。高校時代とは異なり、自分の裁量・責任で、判断・選択し、創り上げていく生活が始まりました。新たに交流会、様々な経験を得た学友が二松学舎で新しいスタートを踏み出しました。ここでは、大学生活に対する抱負・意気込みを各学科の新生に書いてもらいました。

大学に入学して



国際政治経済学科

板橋 広海

大学生としての一步を踏み出した入学式から早四ヶ月、入学当初は大幅な環境の変化に順応できず苦労していたが、今では慣れによる怠惰に悩まされている。人間の順応性の高さに驚かされている呑気な自分がいる一方、早く改善しなければ、と焦燥に駆られて毎日を過ごしている。

私はつい数ヶ月前まで陸上自衛官として勤務していた。幼い頃から憧れを抱き、親に反対されながらも入隊した自衛隊。そのような私が今、自衛隊を辞めて二松学舎大学に入学しているのには理由がある。それは、自衛隊という「一般社会」で自身の教養のなさに気づいたからだ。最近の自衛隊は大卒者の就職先の色合いが増しつつある。そのため、私の同期にもたくさんの大卒者がいた。彼らは厳しい訓練や共同生活の中で、リーダーシップを発揮し、同期を牽引してくれた。私は彼らに憧れると同時に、自らの無力さを恥じた。元より負けず嫌いである私は、自身が無力であることに耐えられなくなり、大学受験を決意した。そして、

仕事をしながら予備校に通った甲斐もあり、いくつかの大学に合格することができた。

では、何故二松学舎大学を選んだのか。それは、皇居や靖国神社、千鳥ヶ淵公園のような歴史的、文化的に重要な史跡が集中していることが魅力的だったからだ。また、首都の中心ということで、多方向からの情報が集まり、自身の見聞を広めることができるという点も挙げられる。

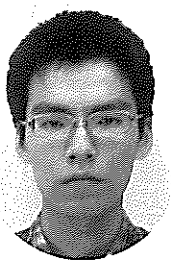
今後、私はこれらの点を生かして、大学四年間で様々な経験をしたいと思っている。そして、社会人にふさわしい知識と教養を身につけ、再び自らの憧れを実現させたい。

ここまで堅苦しいことばかり述べてきた。しかし、私は社会人の不自由さを知ってしまったため、学生のうちは「学生らしく」生きたいと思っている。勉学が本分であることは弁えた上で、部活で汗を流し、友人と笑い合える生活がしたい。それも人生の糧になると信じて。

この大学の存在を知ったのは高校時代の恩師の紹介によつてであった。進学先を決める際に恩師に中国文学をやりたいと申し上げたところ恩師は、「良いよ、やってみなさい。君には見所があるから。そうだね、漢文やるなら二松学舎がいいよ。」とおっしゃった。それともう一つ、「よく楽しんで勉強しなさい。」とおっしゃった。

そして、二松学舎大学に入学してはやくも三カ月がたった。まだまだ生活に馴れたとは言いが、気の合う友人やユニークな先生方と出会えたので、毎日を楽しく過ごせそうな期待感を持つことができた。校内の雰囲気も穏やかなので過ごすにはとてもいい。

しかし、そうした二松学舎の良さを活かしきれているか、というとそうでもない。いまだ集中力を欠いて漫然と過ごしてしまう時間が多いし、既に過ぎた昔のことを思い出し後悔し、うつな気分になってしまったり、貴重な時間を有効に使えていない。そんなことを続けていては、



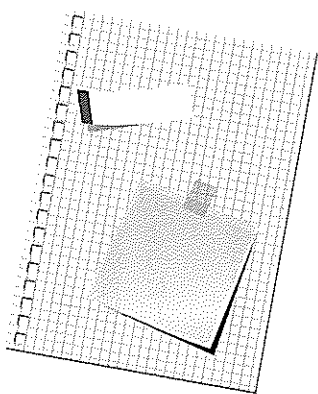
国文学科

熊谷 亮祐

三月の末、不安を抱きつつ私は上京しました。それから三ヶ月経ち、二松学舎の雰囲気や新たな生活に慣れてきた頃にこの原稿をいただきました。

最初は上京以来の座右の銘である「挑戦」に関して書こうと思いましたが、勉強や文学についてはもちろん、私生活でもアルバイトを始めるなど、春から多くに挑戦しています。「挑戦」は人間的成長につながるどころだと考えています。次には勉強に焦点を絞った話を書こうと思っていました。私は、文学を通して「人間」について研究したいと思ひ大学に進学しました。そこで日々の講義だけでなく、講義で紹介された文献を読んだり疑問点を自分なりに考えたりして「思考力」を鍛えるように努めています。また、教員免許だけでなく一般企業への就職も視野に入れ、大学の勉強に留まらない技術向上を目指しています。

上京して初めて強く実感したことがあります。自分の生活は多くを両親に頼っているということです。生活費や契約には常に親の存在があります。自分がまだまだ「子供」だと痛感し、両親の恩恵を実感しました。おそらく私は、一時でも早く親から独立したいのです。いつまでも頼っている、大学生になってようやく親の恩恵を実感した自分が情けない。そんな情けない自分を払拭し、何かの形で両親に感謝を示したい。私が大学に入学して考えたことは、このようなことです。



ここでふと気づいたことが、自分が今までになく必死に何かを目指していることです。今までの自分を振



中国文学科

渡辺 幹也

この大学にきた意味がなくなってしまう。

そこで、必要以上にささいな事を心配したり、過ぎたことを思い出し後悔する悪い癖が出なくなるほど、今の生活を学問に捧げようと決意した。勉強面では、単に授業に沿って勉強するのではなく、自分の好奇心を満たすために様々なことを学び、吸収していきたい。思考の質も同時に高めていきたい。また自分は部活にも所属しており、他の部員に比べると経験は浅いものの、やはり日々目に見えてとれるように上達しているのでもう少し部分を楽しみな結果を出せるようにしたい。

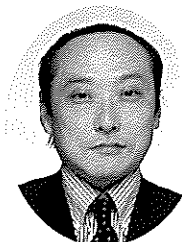
これからの四年間はあつという間かそれとも長いのか。四年が過ぎた時にどう感じるだろうか？自分の人生においてどのような意味を持つのだろうか？まあそれはともかく今を本当に楽しんで、悔いなき日々を送りたい。





文学部 准教授
小山 聡子

古代から中世にかけて、多くの皇族貴族が、苦行である熊野参詣(熊野は和歌山県南部に位置)をした。卒論のテーマと熊野信仰が関わったので、熊野参詣の追体験をするべく、熊野古道を歩きに行ったことがある。チョコレートと水を握りしめ、鬱蒼とした熊野古道をもくもくと二日間歩いた。道は険しく、よじ



国際政治経済学部 教授
佐藤 晋

最近の就活生には「がくちか」が専門のようである。これは、自己PR、志望動機と並んで採用の際に問われる「あなたが学生時代に力を入れたことは何ですか」のことである。採用側は、この質問で、その学生が何に関心があり、どの程度積極性があり、その過程で何を考えてどう工夫して困難を乗り越え、何を学

登らなくてはいけない場所や、すれ違うこともできないような箇所も多かった。一体全体、皇族貴族の輿を担いだ人々は、どのようにして付き従ったのだろうか。

熊野では珍しい温泉を見つけた。エメラルドグリーンに輝く大塔川の川原をスコップで少し掘ると、底からぶくぶくと熱いお湯が湧き出てきた。穴を掘り、川の水を引き入れて好みの温度に調節すれば、自分だけの快適な風呂が出来上がる。お湯に浸かりながら、昔熊野参詣を

私の学生時代

んだかを知りたいようである。この質問におののく学生たちは、在学中からアルバイト、サークル、ボランティア、インターシップ、海外冒険旅行などに駆り立てられることになる。自分なら、この質問にどう答えたいだろうか。おそらく自分のやりたいことを決め、その仕事に向けての能力開発に「力を入れた」と、答えたいだろう。ただ、自分の場合、この「やりたいこと」がなかなか決まらなかった。中高時代は医者にさせられた親に齎に押し込まれていた

した人々について思いを馳せた。心地よく穴にはまってるた寝をしてると、首のあたりを何やらつんと突いてくるものがある。なんと煮えた魚であった。よく見ると、風呂の中に結構な数の小魚が白くなつてプカプカと浮かんでいるではないか。大きめの魚は半煮え状態だ。皿の上の煮魚は美味しそうに見えるのに、なぜ意外な場所で見える「煮魚」は気味悪く見えてしまうのだろうか。

が、それに反発して歴史の先生になると言うことで、大学では文学部に進んだ。しかし、教職も面白くなさそうと挫折。ちょうどその頃、自分の大学に日本近代史の大家であった東大の先生が非常勤で来られた。この先生の講義は、その先生が書いている論文の一週間の進捗を話すという、当時は当たり前で、かつ一般学生にはほとんど価値のないものであった。しかし、これが自分には良かった。まず、研究生活が楽しそう、この道に進もうと決められたのだ。

い、穢れた者が参詣すると怒る、と信じられていたからだ。私の場合は、死穢に触れただけではなく、殺生の罪まで犯したことになる。しかし、幸い神の怒りはなく悪いことはおこらなかつた。学生時代、沢山の寺社を巡って歩いた。見せてもらった貴重な史料についての記憶はあまりないが、旅先での出来事は思いが深い。本末転倒も良いところだが、余計な楽しみがなければ、研究も長続きはしない。無駄なことにも時間を費やせた学生時代は、やはり貴重な時であった。

これでほばやりたいことは決まったが、次は自分にその潜在能力があるかどうかを知らなければ怖くて前に進めない。そこでその先生が毎週読んできて解釈する資料を、自分も手に入れて事前に読んで解釈してみ、自分の「潜在能力」を量ってみた。これを毎週しばらく繰り返した結果、何とかなるのではと思えてきたのだが、とにかく自分の潜在能力は始めて会った他人の質問で量ってもらえるものではない。また、自分に秘められた能力が開発されつくした状況は、とりわけ若者については考えられないのである。

【現四年次生の就職状況】

平成二十七年三月卒業予定者(現四年次)の、就職活動につきまして現状と、今後の予定についてご案内いたします。まず、今年の就職活動の特徴は、学生・企業双方とも動きが早いということがあげられます。とりわけ各企業が、一人の学生に対して行なう選考も例年より短期間で行なっている企業が多く見られました。さて、そうした中、本学の学生の状況は、既に就職先を決定した学生もおりますが、引き続き就職活動を続けている学生も数多くおります。世間では、あたかも現四年次生の就職活動はほぼ終了したというような報道がなされていますが、現実的にはまだ就職活動に励んでいる学生が相当数います。また一方企業側においても、採用枠を拡げた、または内定辞退者が例年より多く出た、といった事情で採用活動を継続している企業も多くあり、本学にも連日のように多くの企業様から求人のご案内を頂戴しているところです。このように現在、活動中の学生にもまだまだ求人企業は数多くありますので、キャリアセンターをご利用くださるよう、ご家庭でもお子様にお声掛けくだされば幸甚に存じます。そうした中、キャリアセンターで

は、就職活動を継続している学生への支援として、今年も様々な支援行事を実施しておりますのでご案内いたします。もともと本号がお手元に届くころにはすでに終了しているものもございますが、夏期休暇終了後、後期に入りましても様々な支援活動を行なっておりますので、後期以降につきましても、よろしくお願いたします。

【支援行事】

キャリアセンターでは、就職活動中の四年次生支援をはじめ、一〜三年次生に向けて様々な支援行事を行なっております。ここでは、七月から九月にかけて取り行なう支援行事をご案内いたします。これらの行事につきましては、既に学生に学内において周知しているところではございますが、ご父母の皆さまからも学生にご案内いただければ幸甚に存じます。

キャリアセンターだより

全学年対象 秘書検定2級取得講座
ガイダンス
(七月一日〜三日)

九月に開催する秘書検定2級取得講座に先立って、講座の概要や申し込み方法について説明いたします。

四年次生対象 学内合同企業説明会
(七月三日)

前項で、ご案内いたしましたように、まだまだ採用活動を継続している企業は数多くありますが、今回は十一社を招聘して、学内において、合同企業説明会を開催いたします。四年次生対象 学内単独企業説明会
(七月五日、十七日、十八日)

先挙げた合同企業説明会に加え、今年度より初めての支援策として、各日程中、一社づつを招聘し、企業説明会及び、希望者に対しては説明会に引き続き一次選考まで、学内で実施する、という会を新たに設けて、開催いたします。
三年次生対象 就活まとめ講座
(八月八日)

春 semester 授業期間中に木曜日四時限に開講しております就活特別講座を、他の講義との重複等により受講できなかった学生を対象に、春 semester 期間中に行なう講座のまとめ講座を開講します。
全学年対象 秘書検定2級取得講座
(有料・九月十二日、二十日、二十七日、十月四日、十一日、十八日)

日)

【まとめにかえて】

冒頭に申し述べましたように、現四年次生の就職活動は、企業・学生双方においてまだ継続しております。現在のところ未内定であったとしても、まだまだ応募するチャンスは多々あり、私共も精一杯、支援してまいりますので、是非ともキャリアセンターを利用するよう、ご指導くださいますようお願いいたします。

あらゆる場面で求められるビジネススマナーや、スケジュール管理等、秘書検定2級の取得を目指して学んでいきます。



九段祭POP & 柏祭GUTS 開催

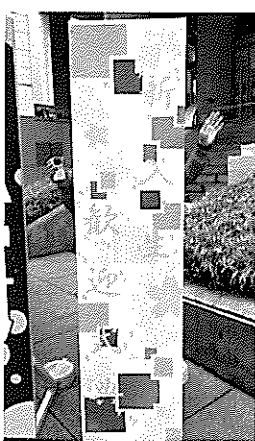
新入生 歓迎式典

学生会執行委員会を務めております、荻沼亮太です。一年生の皆さん、ご入学おめでとうございます。

四月の入学式から早くも七月になりました。一年生の皆さんにとって大学生という新しい環境にそろそろ慣れた頃ではないでしょうか。自分で時間割を立て、空いている時間ではサークル活動やアルバイト、その他資格のための勉強など初めての事ばかりだったと思います。七月下旬に行われる試験期間が終われば、すぐに夏季休業期間になります。長期休業という長い休みの中で自分のやりたいことがさらに広がるのではないかと思います。

さて、四月四日の行われました新入生歓迎式典。この行事は毎年四月上旬に行う学生会執行委員会が主体の最初の行事です。主な目的として、新入生と各団体の出会いの場を、またこれから四年間通う二松学舎大学をもっと知ってもらおうという行事です。今年の新入生歓迎式典に参加いただいた団体は六十三団体になりました。また、今年も昨年と同様、新入生対象の健康診断と同日開催となり、多くの新入生が行事に会場しました。

今年の新入生歓迎式典のテーマは「草創」です。意味は物事の始まり、始めという意味のもと、新入生が「大学という新しい環境の中で新しい自分を見つけたい」と願いを込め、新しい仲間としてこれから一緒に頑張ろうと各団体がそれぞれ新入生を迎え入れたと思います。このテーマのもと、新入生歓迎式典では朝早くから盛り上がり新入生を引き込もうと一生懸命になってチラシを配る団体、中洲記念講堂ではアカペラの透き通る歌声や迫力のある演武での発表を行いました。その結果としてどの団体にも新入生が多く入りました。企画者である学生会執行委員会でも二十名近くの新入生が入会し、これからの活動がとても楽しみです。



学生会執行委員会主催の行事として、六月二十二日(日)に九段祭POP2014、六月二十九日(日)に柏祭GUTS2014を開催致しました。この二つの行事のテーマは「清新」です。新しいことに挑戦して活気のある行事にすることをコンセプトにし、各団体が日頃の活動の成果を発揮致しました。

まず、九段祭POP2014は、文化系団体の発表の場です。以前は柏キャンパスで開催していた行事ですが、文化系団体の強い要望により、昨年から九段キャンパスでの開催となりました。開催当日は中洲記念講堂でのステージ発表、教室を広く使用した演劇や展示、冊子配布などを行い、楽しむ来場者の姿を見ることができました。また、学生会執行委員会主催の企画として、大盛り上がりを見せた豪華景品のビンゴ大会や、普段はなかなか手にすることのない大きな筆と紙を使用した書道体験などを行いました。生憎の雨天となりましたが、参加団体の皆様のご協力により、来場者楽しんで頂ける行事となりました。

次に、柏祭GUTS2014は、毎年行われている球技祭です。昨年と同様にバスケットボールとソフトボール、そして今年から新たにバレーボールを加え、三競技を開催致しました。各競技のエントリー数は昨年を大幅に超え、二四七名のエントリーがありました。開催当日は九段祭POP2014と同様に雨天となり、ソフトボールが中止になってしまいました。バスケットボールとバレーボールはGUTS溢れるプレーが満載の素晴らしい試合を見ることができました。各チームの選手も学生会執行委員会一同も笑顔溢れる行事となりました。

九段祭POP2014及び柏祭GUTS2014は参加団体や来場者の皆様、ご協力下さった関係者の皆様のおかげで成功することができました。この場をお借りし、御礼申し上げます。また、今年お越し頂けなかった方も、来年は是非ご参加下さい！

国文学科二年 稲部勇人
中国文学科二年 山崎浩之



九段祭POP

柏祭GUTS

学生相談室 だより85 カウンセラー 原 信夫

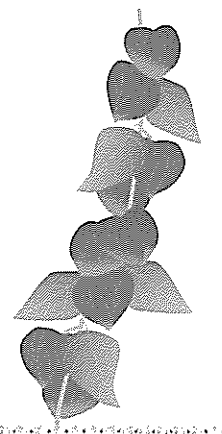
相談室を利用するには、何か大変な悩みがなければならぬと思う学生がいます。そんなことは、まったくありません。気軽に相談に来て下さい、とオリエンテーションで言っているのですが、こんなことで相談に行っているのかと考えるのだそうです。履修のことや授業のこと、生活のことなど、ちょっと尋ねたい、というだけで利用してもらってかまいません。相談室はカウンセリングを受けたい人が行くところ、と思っはいてはいませんか。そう思っはいてしまうと、わざわざ相談室まで足を運ぶのは、気が重いことだと思っはいます。

困ったときに最初に相談する相手は友人が第一位ですが、最近では友人にも相談しづらいという人が増えている印象があります。友人に自分の弱いところをみせたくない、負担をかけたくないというのです。相談することは自分の弱みを見せることでもあり、恥ずかしい、格好悪いと思っはえて、ためらう気持ちが出てくるのでしよう。

自分ひとりで考えて解決していい、困ったときに最初に相談する相手は友人が第一位ですが、最近では友人にも相談しづらいという人が増えている印象があります。友人に自分の弱いところをみせたくない、負担をかけたくないというのです。相談することは自分の弱みを見せることでもあり、恥ずかしい、格好悪いと思っはえて、ためらう気持ちが出てくるのでしよう。

相談室を使っはいてほしい、友人にも悩みを話してほっはいてほしい、と思っはえています。

相談室はカウンセラーが話を聞いてくれます。話を聞いてもらうことで、自分自身で解決できなかった問題が、相談室を使っはいてみると、解決策が見つかることがあります。相談室は、話を聞いてくれる場所です。話を聞いてもらうことで、自分自身で解決できなかった問題が、相談室を使っはいてみると、解決策が見つかることがあります。



平成25年度決算の概要

平成25年度の状況

二松学舎創立135周年(平成24年10月)を機に策定した長期ビジョン「N' 2020 Plan」に基づき、その実行計画である「アクションプラン」の各課題について、施設設備整備をはじめ大学・両附属高校・中学校の具体的な改革を実行している。平成25年度においては、大学の九段集約に伴い施設の拡充をはかるため昨年度取得した土地(九段南2丁目)に大学九段新校舎の建築を開始したほか、附属高校柏グラウンドの改修整備(人工芝化等)、その他各種事業を実施した。

当年度、入学者の募集定員充足率は、大学/学部119%、附属高校96%、柏高校124%、柏中学校63%、在籍者の収容定員充足率は、大学/学部123%、附属高校91%、柏高校106%、柏中学校60%であり、大学院、附属高校および柏中学校で入学定員、収容定員ともに未充足となった。

大学では、平成23年3月11日に発生した東日本大震災並びに福島第一原子力発電所事故に伴う被災学生に対し、授業料等の減免措置を前年度に引き続き実施し、全学的に教育研究振興資金募金として被災学生支援のための募金活動を行った。

平成25年度の決算概況

学校法人における決算書は、事業年度の消費収入と消費支出の均衡状態や財政の健全度合いを示す消費収支計算書、学校法人の諸活動に関わるすべての資金の流れを示す資金収支計算書および年度末における資産・負債・正味資産の状態を示す貸借対照表から成っており、それぞれ別表1、別表2および別表3のとおりである。

1. 消費収支計算書について(別表1)

消費収支計算では、帰属収入合計が55億3千3百万円、基本金組入額は11億7千万円(このうち九段新校舎3億4百万円、柏グラウンド整備2億1千2百万円)、消費収入合計は44億2千7百万円、消費支出合計は49億3千8百万円となり、消費収支差額は5億1千1百万円の消費支出超過となった。

消費収入では、入学者数が大学院14名・学部711名・附属高校240名・柏高校308名・柏中学校64名、合計1,337名で前年度比53名増加、在籍者数は大学院40名・学部2,949名・附属高校682名・柏高校790名・柏中学校185名、合計4,646名で前年度比111名増加し、学生生徒等納付金は38億2千2百万円(前年度比4千9百万円増加)となった。補助金は8億4千9百万円(このうち経常費補助金は国庫補助金1億9千3百万円、東京都補助金2億3千9百万円、千葉県補助金3億3千7百万円)、資産運用収入・売却差額は3億6千3百万円(前年度比1億8千8百万円増加)、雑収入は3億1千2百万円(このうち退職金団体交付金は2億6千8百万円)となった。消費支出では、人件費が29億1千9百万円(退職給与引当金繰入額増加、柏中学校の年次進行等により前年度比3千4百万円増加)、教育研究経費は15億6千万円(前年度比1億3千3百万円増加)、管理経費は3億9千万円(前年度比1千4百万円減少)であり、消費収支差額は5億1千1百万円の支出超過、帰属収支差額は5億9千6百万円の収入超過(前年度比2億5千3百万円増加)となった。

2. 資金収支計算書について(別表2)

収入の部では、有価証券の償還等により資産売却収入が16億4千5百万円、学納金等の前受金収入は10億2千7百万円(前年度比6千3百万円増加)、その他の収入は退職給与引当特定資産からの繰入収入、貸付金回収収入、前期末未収入金収入等により6億2千万円、前年度繰越支払資金を含め収入の部合計額は115億5千7百万円となった。

支出の部では、人件費支出が29億9千2百万円(定年退職者増による退職金支出増加、前年度比6千8百万円増加)、教育研究経費支出は9億7千5百万円(前年度比6千7百万円増加)、管理経費支出は3億5千9百万円(前年度比1千9百万円減少)、借入金返済および利息支出は8億4千9百万円となった。施設設備関連の支出は大学九段新校舎の建築開始、柏グラウンドの改修整備、図書・備品購入等で9億1千5百万円、資産運用支出は退職給与引当特定資産繰入、有価証券等購入により21億5千4百万円となった。このほか前期末未払金の支出等があり、これらの結果、次年度繰越支払資金は33億4千6百万円(前年度末より3億9千1百万円減少)となった。

3. 貸借対照表について(別表3)

資産の部は、有形固定資産が大学九段新校舎の建築開始、柏グラウンド等施設整備や図書・備品の購入等により9億2千万円増加、減価償却額6億1千5百万円等により174億7千9百万円(前年度比3億3百万円増加)となった。また、その他の固定資産は、有価証券の償還や他資産への振替、退職給与引当特定資産の取崩し等により37億2千2百万円(前年度比2億8千8百万円減少)となり、流動資産は59億6千1百万円(前年度比2億4千6百万円増加)となった。

負債の部は、私学事業団への借入金返済や退職給与引当金の減少により固定負債は25億1千1百万円となった。また、平成26年度入学予定者の増加により前受金(学納金)が増加し、流動負債は16億9千2百万円となり、負債額の合計は42億3百万円(前年度比3億3千5百万円減少)となった。

基本金の部は、第1号基本金(土地・建物・図書・備品等固定資産の取得)及び第3号基本金(奨学基金)の組入額11億7百万円により244億5千3百万円となった。

これらの結果、平成25年度末における貸借対照表は、資産の部合計額271億6千3百万円、負債の部合計42億3百万円、基本金の部合計額244億5千3百万円、消費収支差額の部における翌年度繰越消費支出超過額は14億9千4百万円となり、正味財産額は229億6千万円(前年度末より5億9千6百万円増加)となった。

4. 主な財務比率について(別表4)

消費収支関係比率では、学納金をはじめ帰属収入が前年度比増加し、人件費比率(帰属収入に占める人件費の割合)、人件費依存率(学生生徒等納付金に占める人件費の割合)および管理経費比率(帰属収入に占める管理経費の割合)、借入金等利息比率、消費収支比率が前年度比減少となった。一方、教育の質向上を図るための各種事業の実施により教育研究経費比率(帰属収入に占める教育研究経費の割合)は上昇した。帰属収支差額比率は近年低下傾向にあったが学納金、補助金、資産運用収入・売却差額、雑収入の増加により大幅上昇となった。また、施設改修計画に基づく大学九段新校舎の建築開始および附属高校柏グラウンド改修などにより基本金組入率が上昇傾向にある。貸借対照表関連比率では、固定資産構成比率(総資産に占める固定資産の割合)、固定負債構成比率(総資金に占める固定負債の割合)、固定比率(自己資金に占める固定資産の割合)等が低下し、流動資産構成比率(総資産に占める流動資産の割合)、流動比率(流動負債に占める流動資産の割合)の上昇など固定から流動へのトレンドにあり、良好といえる。一方、設備投資に伴う基本金組入などにより消費収支差額構成比率(総資金に占める消費収支差額の割合)は低下傾向にある。そのほか、自己資金構成率(総資金に占める自己資金の割合)及び負債比率(自己資金に占める総負債の割合)、基本金比率、内部留保資産率(財政上の余裕度)、運用資産余裕比率(支出規模に対する資金の蓄積度)、退職給与引当金預金率等は良好な水準にある。

林ゼミナール

私たちのゼミナールでは、辞世の句について学んでいます。日本史上に残る六十人の辞世の句と、その生涯についての解説文を細かく追っていき、深い知識を身につけながら、生き方を掘り下げて考えてみるという内容で活動しています。日本史上と一口に言っても、戦国武将・新撰組・画工・詩人・宮廷歌人といったように様々な分野で活躍した人物の一生を追っていくので、幅広い知識が

必要とされます。発表を担当する学生は事前に中西進著『辞世のことは』(中公新書)というテキストに基づいて、詩歌や引用された語句の原典を確認し、テキストを正確に読むことが求められます。林先生は大学附属図書館の蔵書だけでなく、新聞やテレビ番組にまでアンテナを張って情報を集め、学生の発表を補足することで、聴いている側の理解をより深めてくださいます。人数の少ないゼミであるため、一人一人の発表の濃度が高いものとなっています。

何の前例もないので、どのように学習をしていくかなどの問題は数多く存在します。授業では取り上げる事のできない、言語学について、どのように学習していけばいいのか。言語に関する論文は、どういったテーマで取り組めばいいのか。手探りで、自分達で考えなくてはなりません。その一方で、しがらみなく、自分達の手で伝統を作っていく事は、やりがいがあり、楽しくもありません。

毎週、課題として、日本語の表現や文法に関するドリルが出されます。先生が授業のはじめに解説してくださるので、日本語の基礎的な知識を蓄えることができます。週一回の授業の他にも、毎年夏には二泊三日のゼミナール合宿が行われ、私たち三年生は草津に行く計画を進めています。九段キャンパスの都会的な空気とは違った、開放的な自然に囲まれて、それぞれの興味のあるテーマを設定しての発表を予定しています。また、勉強だけでなく、寝食を共にすることでゼミ生同士の距離を縮めることも目的としています。学習面以外でも学べることの多い、充実した合宿にしたいと考えています。



国文学科三年 加藤龍史

戸内ゼミナール

戸内ゼミナールでは、現代中国語文法について学んでいます。具体的には、中国語で書かれた文法専門書の和訳と中国語リスニングの訓練を行っています。私達が毎週読み解いているのは、二十世紀最大の中国語学研究者である朱德熙(しゅとくき)の『語法答問』というテキストです。中国語文法を学ぶ者は必ず読まなくてはならないと言われているテキストである

り、とても本格的な内容です。さらに、当然ながら全文中国語で書かれており、和訳の難易度は、今まで触れてきた、初級・中級者向けの教科書とは比較にならないほどの高さです。課題をこなすのは大変骨が折れる作業ですが、日々、知識が深まっていると実感することができます。ゼミナール最大人数の二十人が所属する私達戸内ゼミナールは、今年の四月から始まった最も新しいゼミナールです。上級生はおらず、担当の戸内俊介先生も私達と同じ一年目です。

ゼミ探訪

中国文学科三年 齋藤遼太郎



平成26年度予算の概要

平成26年度の状況

創立135周年を機に定めた二松学舎の長期ビジョン（N'2020 Plan）およびアクションプランに則って、大学・両附属高校・中学校の改革を推進し、所与の成果をあげる。大学・両附属高校・中学校とも効果的な学生・生徒募集及び広報活動を実施する。附属柏中学校は設置4年目となり、附属柏高等学校との中・高を通じた教育の充実と生徒募集の強化を図る。

キャンパス整備については、大学九段新校舎が竣工し、既存校舎の改修を行い、各種施設が整備拡充される。また、附属高校校舎宿所（柏キャンパス）の改修整備のほか各学校とも校舎の経年劣化により必要となる修繕工事を計画立てて実行する。

収支については、両附属高校の生徒納付金改定（値上げ）および附属柏高等学校の臨時定員増により学納金収入が増加する見込みである。一方、人件費及び教育研究経費が増加する見込みである。私立学校への経常費補助金の大幅増加は見込めないが、私立大学の特色ある取り組みへの支援や建学の精神や特色を生かした教育改革等の事業に積極的に申請し獲得を図る。資金運用については、運用環境は改善しつつあるが大幅な収入増加は見込めない状況にある。

キャンパス整備の進捗に伴い、校舎の維持管理や情報システム機器の運用・保守に係る経費（減価償却を含む）や私学事業団への借入金返済等、平成26年度以降も長期に亘り多額の支出が続くことが予想される。

平成26年度はアクション・プラン推進2年目となる。N'2020 Plan（アクションプラン）に織り込まれていない投資は極力抑えることとし、特別事業費申請案件については厳しく査定し、経常的な経費についても見直し・削減を強力に実施する。既存事業の見直しを行い、スクラップ・アンド・ビルドにより事業を推進するとともに、不採算事業項目については縮小・廃止を検討し、収支改善を図ることを平成26年度の予算編成方針とした。

平成26年度の収支状況

1. 消費収支予算書について（別表5）

(1) 消費収入の部について

- ①収入の柱である学生生徒等納付金は、39億9百万円となる見込みである。
- ②手数料は、入学検定料を主として1億1千9百万円を見込んでいる。
- ③補助金は、大学及び両附属高等学校および柏中学校とも経常費補助金を主な収入として見込んでおり7億9千4百万円を計上している。
- ④資産運用収入は、安全性に配慮した資産運用を行い、1億2千2百万円を見込んでいる。
- ⑤雑収入は、退職金団体からの交付金4千6百万円と併せて8千2百万円を見込んでいる。
- ⑥基本金組入額は、施設・設備の整備及び教員・器具・備品の取得などにより、9億6千6百万円を計上している。

(2) 消費支出の部について

- ①人件費は、27億3千7百万円となる見込みである。
- ②教育研究経費は、設備の整備、情報システム関連経費、図書館業務のアウトソーシングほか特別事業費および減価償却額などにより、17億2千3百万円を計上している。
- ③管理経費は、教育研究経費と同様に施設・設備の維持管理費と事務システム関連経費および減価償却額などにより、4億3千3百万円を見込んでいる。

これらの結果、帰属収入は50億6千3百万円、基本金9億6千6百万円組入後の消費収入合計は40億9千7百万円、消費支出合計は49億2千7百万円となり、8億3千万円の消費支出超過となる見込みである。

2. 資金収支予算書について（別表6）

収入の部は、学生生徒等納付金収入、資産運用収入、退職金団体交付金を含む雑収入などにより、当年度収入額は63億2千9百万円となり、前年度繰越支払資金33億4千6百万円と合わせて収入額合計は96億7千5百万円となる見込みである。

支出の部は、人件費支出の減少、教育研究経費・管理経費支出の増加、借入金等返済支出、施設整備支出等により、当年度支出額は62億5千4百万円となり、次年度繰越支払資金は34億2千1百万円となる見込みである。

別表1 消費収支計算書

科 目	（単位：百万円）		
	平成25年度	平成24年度	増 減
消費収入の部			
学生生徒等納付金	3,822	3,773	49
手数料	117	125	△ 9
寄付金	68	57	10
補助金	849	748	101
資産運用収入	175	129	46
資産売却差額	188	46	142
事業収入	3	3	△ 0
雑収入	313	232	80
帰属収入合計	5,533	5,114	420
基本金組入額合計	△ 1,107	△ 1,527	420
消費収入の部合計	4,427	3,587	840
消費支出の部			
人件費	2,919	2,885	34
教育研究経費	1,561	1,428	133
管理経費	390	404	△ 14
借入金等利息	36	41	△ 5
資産処分差額	24	3	21
徴収不能引当金繰入額	9	10	△ 1
消費支出の部合計	4,938	4,771	167
当年度消費支出超過額	△ 511	△ 1,184	673
前年度繰越消費収支差額	△ 983	202	△ 1,184
翌年度繰越消費収支差額	△ 1,494	△ 983	△ 511

別表3 貸借対照表

科 目	（単位：百万円）		
	平成25年度末	平成24年度末	増 減
固定資産			
有形固定資産	21,202	21,187	14
その他の固定資産	17,479	17,177	303
流動資産	3,722	4,011	△ 288
流動資産	5,961	5,715	246
資産合計	27,163	26,903	260
固定負債			
流動負債	2,511	2,890	△ 378
流動負債	1,692	1,649	43
負債合計	4,203	4,539	△ 335
基本金	24,453	23,347	1,107
翌年度繰越消費支出超過額	△ 1,494	△ 983	△ 511
負債・基本金・消費収支差額合計	27,163	26,903	260

(注)別表の金額は百万円未満を四捨五入しているため、合計など数値が計算上一致しない場合がある。

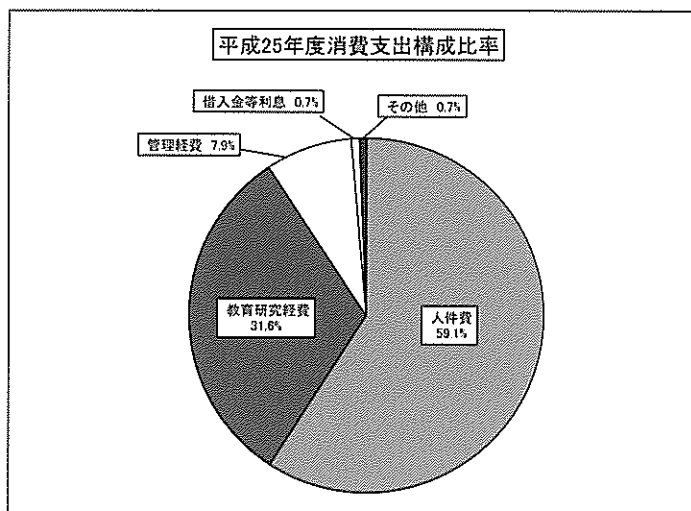
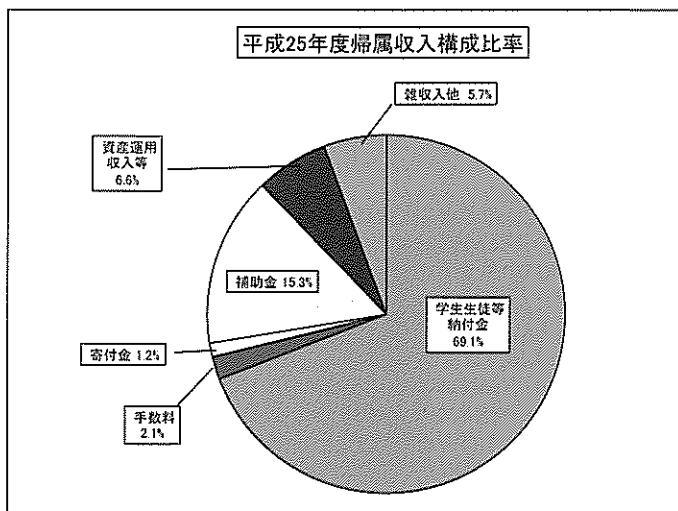
別表2 資金収支計算書

科 目	（単位：百万円）		
	平成25年度	平成24年度	増 減
収入の部			
学生生徒等納付金収入	3,822	3,773	49
手数料収入	117	125	△ 9
寄付金収入	62	54	8
補助金収入	849	748	101
資産運用収入	175	129	46
資産売却収入	1,645	1,650	△ 5
事業収入	3	3	△ 0
雑収入	313	232	80
借入金等収入	501	501	0
前受金収入	1,027	964	63
その他の収入	605	966	△ 360
資金収入調整勘定	△ 1,299	△ 1,003	△ 296
当年度資金収入合計	7,819	8,141	△ 322
前年度繰越支払資金	3,737	3,449	289
収入の部合計	11,557	11,590	△ 33
支出の部			
人件費支出	2,992	2,924	68
教育研究経費支出	975	908	67
管理経費支出	359	378	△ 19
借入金等利息支出	36	41	△ 5
借入金等返済支出	813	752	61
施設関係支出	624	1,178	△ 555
設備関係支出	291	105	186
資産運用支出	2,154	1,552	602
その他の支出	189	188	1
資金支出調整勘定	△ 221	△ 172	△ 49
当年度資金支出合計	8,211	7,853	358
次年度繰越支払資金	3,346	3,737	△ 391
支出の部合計	11,557	11,590	△ 33

別表4 主な財務比率

比 率	計 算 式	（単位：％）		
		平成25年度	平成24年度	24年度全国平均
人件費比率	人件費/帰属収入	52.8	56.4	52.8
人件費依存率	人件費/学生生徒等納付金	76.4	76.5	71.9
教育研究経費比率	教育研究経費/帰属収入	28.2	27.9	31.2
管理経費比率	管理経費/帰属収入	7.0	7.9	9.2
帰属収支差額比率	(帰属収入-前受金)/帰属収入	10.8	6.7	4.8
学生生徒等納付金比率	学生生徒等納付金/帰属収入	69.1	73.8	73.4
固定資産構成比率	固定資産/総資産	78.1	78.8	86.7
固定比率	固定資産/自己資金	92.3	94.7	99.5
流動比率	流動資産/流動負債	352.3	346.6	237.1

(注)「全国平均」は、日本私立学校振興・共済事業団集計による医療系を除く500大学法人の平均を示す。



別表5 消費収支予算書

(単位：百万円)

科 目	平成26年度 予 算	平成25年度 決 算	増 減
消費収入の部			
学生生徒等納付金	3,909	3,822	87
手数料	119	117	3
寄付金	34	68	△ 34
補助金	794	849	△ 55
資産運用収入	122	175	△ 53
資産売却差額	0	188	△ 188
事業収入	3	3	△ 0
雑収入	82	313	△ 230
帰属収入合計	5,063	5,533	△ 470
基本金組入額合計	△ 966	△ 1,107	141
消費収入の部合計	4,097	4,427	△ 330
消費支出の部			
人件費	2,737	2,919	△ 182
教育研究経費	1,723	1,561	163
管理経費	433	390	43
借入金等利息	33	36	△ 2
資産処分差額	0	24	△ 24
徴収不能引当金繰入額	0	9	△ 9
消費支出の部合計	4,927	4,938	△ 11
当年度消費支出超過額	△ 830	△ 511	△ 319
前年度繰越消費支出超過額	△ 1,494	△ 983	△ 511
翌年度繰越消費支出超過額	△ 2,324	△ 1,494	△ 830

注) 金額は百万円未満を四捨五入しているため、合計額等が一致しない場合がある。

別表6 資金収支予算書

(単位：百万円)

科 目	平成26年度 予 算	平成25年度 決 算	増 減
収入の部			
学生生徒等納付金収入	3,909	3,822	87
手数料収入	119	117	3
寄付金収入	34	62	△ 29
補助金収入	794	849	△ 55
資産運用収入	122	175	△ 53
資産売却収入	300	1,645	△ 1,345
事業収入	3	3	△ 0
雑収入	82	313	△ 230
借入金等収入	701	501	200
前受金収入	967	1,027	△ 60
その他の収入	310	605	△ 295
資金収入調整勘定	△ 1,012	△ 1,299	287
当年度資金収入合計	6,329	7,819	△ 1,490
前年度繰越支払資金	3,346	3,737	△ 391
収入の部合計	9,675	11,557	△ 1,882
支出の部			
人件費支出	2,699	2,992	△ 293
教育研究経費支出	1,086	975	110
管理経費支出	403	359	44
借入金等利息支出	33	36	△ 2
借入金等返済支出	314	813	△ 500
施設関係支出	1,123	624	499
設備関係支出	173	291	△ 118
資産運用支出	413	2,154	△ 1,741
その他の支出	191	189	2
資金支出調整勘定	△ 180	△ 221	41
当年度資金支出合計	6,254	8,211	△ 1,956
次年度繰越支払資金	3,421	3,346	74
支出の部合計	9,675	11,557	△ 1,882

二松学舎大学父母会成長支援型(資格・能力取得育英)奨学金について

父母会では、今年度より公立学校教員採用試験合格者・公務員試験合格者・父母会が指定した資格の取得者を対象とした奨学金を設けました。

申請方法、申請時期等の詳細につきましては、

二松学舎大学ホームページ⇒松苓金(卒業生)、父母会・後援会関係者の方⇒父母会の方へにアクセスしていただき、二松学舎大学父母会奨学金の募集についてをご覧ください。

父母会ホームページ URL <http://www.nishogakusha-u.ac.jp/fubo/>

編集後記

今回の父母会報第八五号は、いかがだったでしょうか。今年度、お子様が入学されたご父母の皆様には、お祝いを申し上げます。

この会報が届くときは、夏真っ盛りとなっておりますが、お子様もご父母の皆様も、体の調子を崩していませんか。今年は、エルニーニョ現象の状態に近づいたという発表がありました。日本では、冷夏、暖冬になりやすい傾向ですが、夏だからこそ、栄養をとって乗り切りましょう。

六月の下旬から七月の下旬にかけて、地区別懇談会が開催されましたが、参加して頂けましたでしょうか。この懇談会は、他の大学にない活動の一環だと思っています。

最後になりましたが、この父母会の役員は、各学年より四名が選出され、計一六名で構成されています。今回の広報係として、この会報が大学とご父母の皆様、そして大学の様子のわかるような橋渡しができるように努めたいと思っておりますので、事務局までご意見等頂きたいと思っております。